

明日のために、今日はじめよう。
平和で健全な社会をつくるために、
コスモ石油は行動しています。

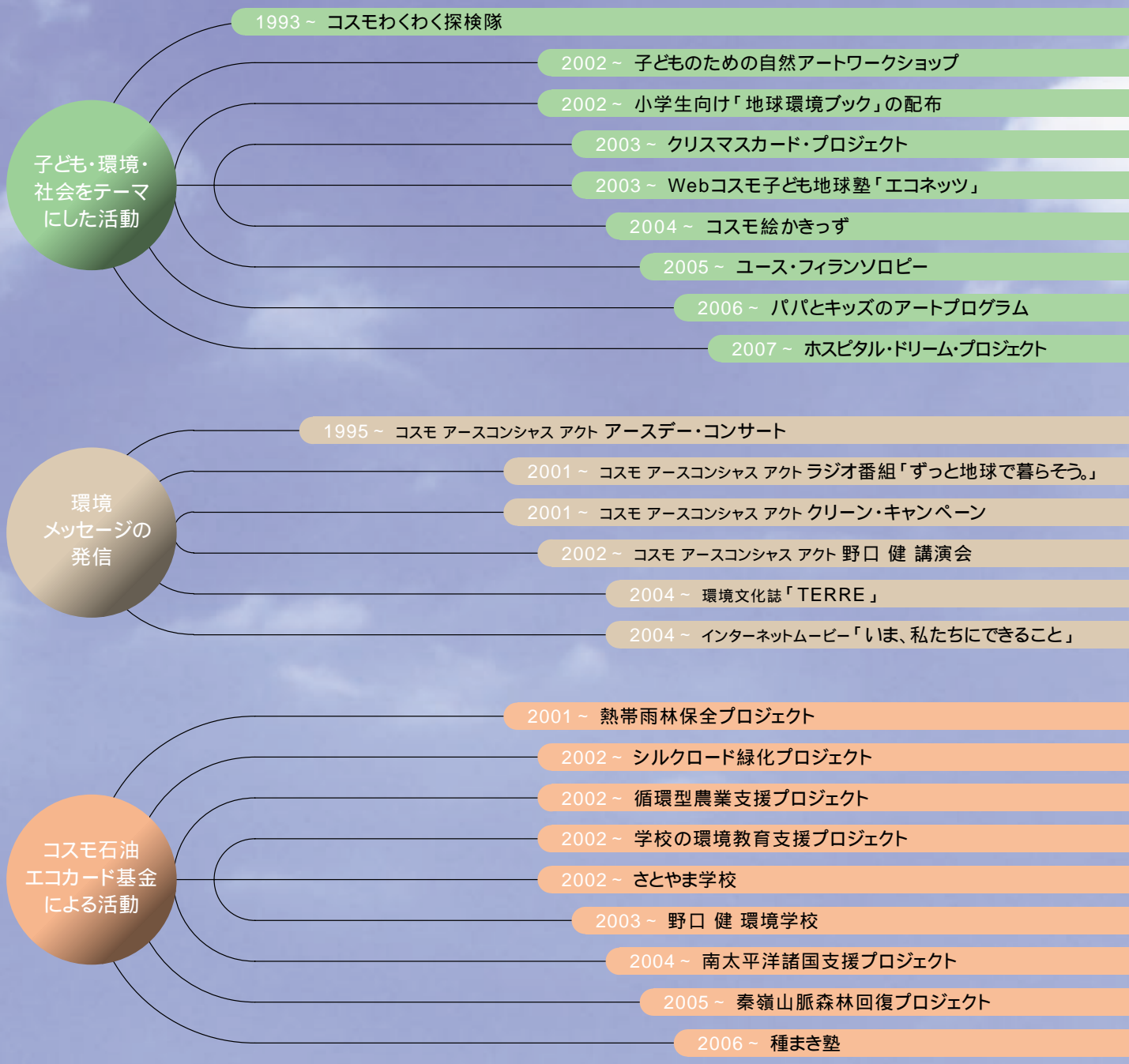
Start today for a better tomorrow.
Cosmo Oil is striving to build a peaceful and healthy society.

企業は、社会の一員です。ですから、企業が発展していくためには、社会から存続を認められることはもちろん、社会が平和で健全であること、地球環境が保全されていることが、その前提条件になります。コスモ石油は、地球と人間と社会の共生を図り、持続可能な発展をめざすことを経営理念に定め、社員や幅広く社外からの参加を促し、社会貢献活動に取り組んでいます。

コスモ石油は 1993年に、交通遺児の小学生を対象にした自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊（7ページ）」を主催するとともに、社員ボランティアの育成に着手。また2002年には、お客様とともに地球温暖化防止や次世代の環境教育支援に取り組むプロジェクト「コスモ石油エコカード基金（19ページ）」による活動を開始しました。今後も、社員の社会貢献マインドの醸成に努めるとともに、お客様や NPO、支援先とのネットワークを拡げることで、活動の質の向上やフィールドの拡大を図っていきます。

A company is a part of society. In order for the company to grow and develop in society, one natural assumption is that its existence should be recognized by society yet other assumptions are that society is peaceful and healthy and that the global environment is preserved properly. Cosmo Oil's management vision is that it will strive to ensure symbiosis among the planet, humanity and society and to aim at sustainable growth. And it is engaged in social contribution activities by encouraging people both inside and outside the company to join them.

In 1993, Cosmo Oil began to host the "Cosmo Waku Waku Camp (Please refer to Page 7 for detailed information), a program providing an opportunity for elementary school children orphaned through traffic accidents to experience nature and started developing volunteers from among its employees to help with the program. In 2002, the company launched the "Cosmo Oil Eco Card Fund project (Please refer to Page 19 for detailed information) including a customer-participating global warming prevention program and an environmental support education program for children. The company will continue striving to grow a voluntary spirit of social contribution in the minds of employees, while broadening its network of customers, NPOs and other supporters to improve the quality of activities and expand the scope of their fields.



コスモ石油は、私が社長に就任した2004年から「CSR経営」を重要な課題として取り組んできました。私たちは、社会から信頼される誠実な企業経営を実践する一方で、社会に利益を還元することで「社会から期待される新たな企業価値」を創造していこうとしています。そのためには、「当たり前のことは当たり前にする」「やってはいけないことはやらない」を、社員一人ひとりが自覚する必要があります。なぜなら、CSR経営を推進するのは会社ですがそれを実践するのは一人ひとりの社員だからです。2008年には、全社員がそれぞれの立場でCSRをとらえ、迷ったときに立ち戻り、日々の行動を通じて経営理念を実現できるよう、5年ぶりに企業行動指針*を改訂しました。

私はこれまで、富士山の清掃活動や「コスモわくわく探検隊」に参加しました。仕事を離れ社会貢献活動をする中で、会社がどう見られているかを知り、さまざまなステークホルダーの存在を再認識する機会になりました。ステークホルダーの顔が見えることで、その信頼を裏切ることなく誠実に対峙していく決意を持つことができます。



**社員一人ひとりが
社会貢献マインドを持った
企業をめざします。**

We aim at becoming a company in which each and every employee has a spirit of social contribution.

コスモ石油株式会社 代表取締役社長
木村 彌一
Yaichi Kimura
President Cosmo Oil Co., Ltd.

We at Cosmo Oil have worked on an important challenge of "corporate social responsibility(CSR) management" since 2004, when I was named president. We are managing the company in a sincere manner, for which we hope to earn the trust of society, while trying to create "new corporate values to win expectations from society" by redeeming profits to society. To achieve this, each and every employee needs to become aware that they "do their duty as it should be done" and that they "never do otherwise." Though the company promotes CSR management, it is individual employees who put it into practice. Therefore, in 2008, we revised the Cosmo Oil Group Code of Conduct* for the first time in five years so that all employees can understand the company's CSR in their respective positions, consult it for guidance and live up to the company's management vision through their daily activities.

I have also personally participated in the "Mt. Fuji cleanup" and the "Cosmo Waku Waku Camp" programs. Being away from work and participating in the social contribution activities provided an opportunity for me to see how the company is viewed by people and to re-recognize the variety of stakeholders that the company has. Seeing the stakeholders in person makes me renew my commitment to doing everything in good faith by living up to the trust they place in us. Joining a social

これは、社員としてCSRを実践する一歩となります。コスモ石油では、1993年から継続している「コスモわくわく探検隊」をはじめ、社員ボランティアが参加する社会貢献活動を展開しています。こういった活動への参加を通じて、社員一人ひとりの社会貢献マインドを醸成することで、本当のCSR経営が実現できます。コスモ石油グループの社員は全国で3,298人(2009年1月1日現在)、そしてコスモ系列のサービスステーションは3,955カ所(2009年1月末現在)あります。私たちは、企業として責任を果たし、広く社会に貢献するために、一人ひとりが社会貢献マインドを持った企業でありたいと考えています。コスモ石油は、2007年度から「ボランティア休暇制度」を導入し、社内への認知拡大に努めています。同時に、社員が参加しやすい社会貢献活動を全国各地で展開することで、コスモ石油グループの社員一人ひとりが積極的に、持続可能な社会づくりに貢献していきます。

*コスモ石油グループ 企業行動指針
<http://www.cosmo-oil.co.jp/company/guideline.html>

contribution program provides the first step an employee can take to practice CSR on his or her way.

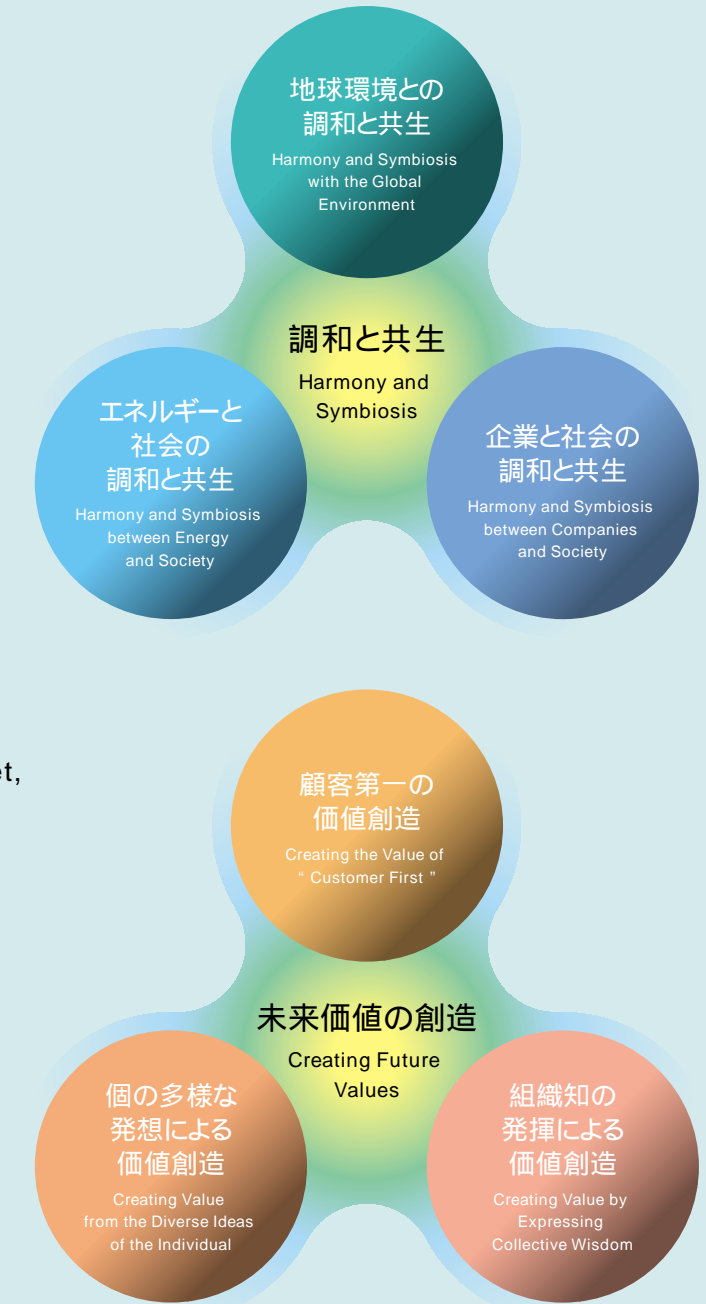
Cosmo Oil has been conducting a variety of social contribution activities that encourage employees to attend as volunteers, including the "Cosmo Waku Waku Camp" program we have run since 1993. Growing a good spirit of social contribution among employees through their participations in such activities allow the company to realize true CSR management. The Cosmo Oil Group employs a total of 3,298 people across Japan(as of January 1, 2009) and its direct-run and affiliated service stations operational nationwide a total of 3,955 (as of January 31, 2009). We are committed to assuming responsibility as a good corporate citizen and to being a company in which each employee has a good spirit of social contribution in order to make contributions to society in various ways.

Cosmo Oil introduced the "Volunteer Sabbatical Leave" program in 2007 and now communicates it in-house for all employees to know about it. At the same time, the company will execute a variety of social contribution programs, which employees find easier to attend, in all parts of the country so that all the Cosmo Oil Group employees can make active contributions toward building a sustainable society.

*Cosmo Oil Group Code of Conduct
<http://www.cosmo-oil.co.jp/eng/company/guideline.html>

わたしたちは、
地球と人間と社会の
調和と共生を図り、
無限に広がる
未来に向けての
持続的発展をめざします。

In striving for harmony and symbiosis between our planet, humanity and society, we aim for sustainable growth towards a future of limitless possibilities.



社会貢献活動のコンセプト
Concept of social contribution activity

- 未来の社会をつくる子どもたちの啓蒙**
To educate children who will be part of the future society.
- 人間社会が存続するための基盤である地球環境の保全**
To preserve the global environment - the foundations of a sustainable society.
- 平和で心豊かな文化的社会の構築**
To form a peaceful, considerate and cultural society.

社会貢献活動の基本方針 (1992年制定)
Basic policy of social contribution activity

- コスモ石油としてオリジナリティのある活動を行う**
Activities unique to Cosmo Oil.
- 社員が参加して活動する**
Full personnel participation.
- 経営状況に左右されず長期継続する**
Lasting presence regardless of our business status.

子ども・環境・社会をテーマにした活動

Activities Centered on Children, the Environment and Society

健全な次世代育成と社員の社会貢献マインドを醸成するプログラムです。NPOや支援先とのネットワークを駆使して、活動の環を拡げています。

A program designed to nurture children with healthy bodies and healthy minds who will be a part of the future society and to grow a spirit of social contribution among employees. Cosmo Oil utilizes its network of NPOs and other supporters to broaden the circle of activities.



会社、社員、外部ネットワークによる活動の広がり



子ども・環境・社会をテーマにした活動の広がり

活動を通じた社員ボランティアの育成により、活動のフィールドを拡大するとともに、社内外での社会貢献マインドの醸成を図っています。

活動を主催し、プログラムづくりのノウハウを蓄積。

コスモ石油が主催する社会貢献プログラム「コスモわくわく探検隊」は、1993年にスタートしました。コスモ石油が主体となって、NPOの協力のもとにプログラムを企画・運営することで、子ども向けプログラムづくりのノウハウを蓄積。2002年にスタートした「子どものための自然アートワークショップ」や、2006年にスタートした「パパとキッズのアートプログラム」などへと展開していきました。

社員参加を促し、社員ボランティアのスキルを向上。

社員が活動に参加することで、ボランティア活動に対する社員のスキルが向上します。「コスモわくわく探検隊」に参加した社員ボランティアは、現在300名以上。「子どものための自然アートワークショップ」をはじめ、さまざまな活動をサポートしているほか、養護施設の子どもたちを元気づけるためのプロジェクト「コスモ絵かきっず」は、社員ボランティアが中心になって運営されています。

活動を継続的に実施し、タイムリーな活動へと展開。

継続的に活動を行うことで、社内外での理解や認知が高まり、社会貢献マインドが醸成されます。さらに、継続的な活動を通じて得たノウハウや人材、外部とのネットワークを基盤に、社会問題にタイムリーに対応したプログラムを展開することが可能になります。地球環境をテーマにした「子どものための自然アートワークショップ」から、養護施設の子どもたちを対象とした「コスモ絵かきっず」、父親の育児参加支援を目的とする「パパとキッズのアートプログラム」、子どもたちの社会貢献マインドを醸成する「ユース・フィランソロピー」さらに2008年度は「ホスピタル・ドリーム・プロジェクト」へと広がっています。

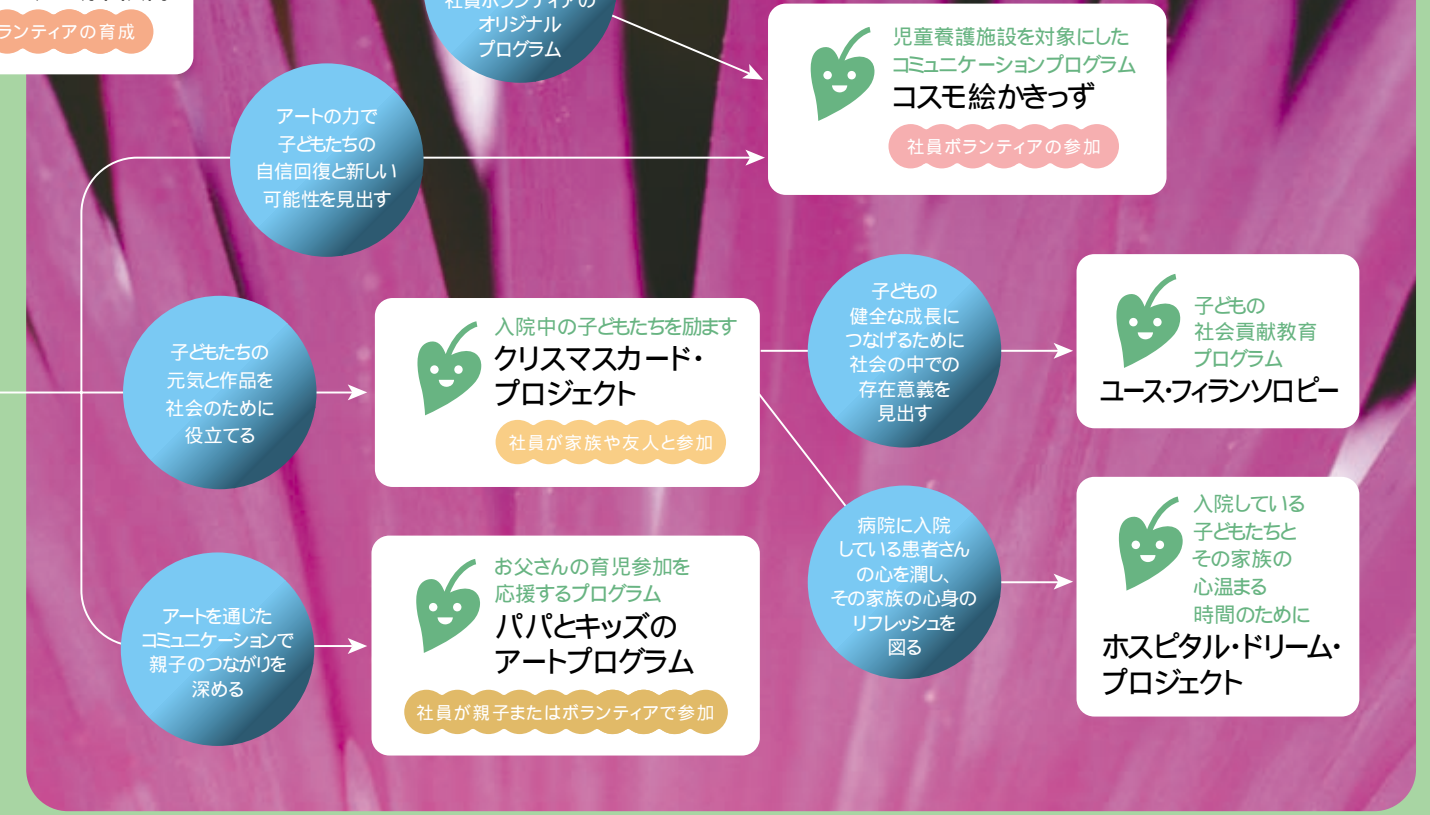
[地球環境との調和と共生]

コスモ石油の企業姿勢である「環境」をテーマにした活動



[企業と社会の調和と共生]

社会問題に対応したタイムリーな活動





A 動物がやってくるのをじっと待ちます
B スタッフが動物が来た跡を解説
C どうしたら動物が観察ポイントに来るのかを考えながら改造しました
D 各グループが違うメニューを調理して、ピュウフェ形式で食事をしました

コスモ子ども地球塾 コスモわくわく探検隊

1993~
Cosmo Children's Earth School
Cosmo Waku Waku Camp

交通遺児を対象にした、2泊3日の自然体験プログラムです。子どもたちの安全健康管理のために、NPOと社員ボランティアは、本番と同じスケジュールで事前現地研修を行います。

A two-night, three-day camping program providing an opportunity for children orphaned through traffic accidents to experience mother nature. To ensure the safety and health of children, the NPO and voluntary employee participants attend a training session that is a dress rehearsal with the same program as the day of the camp.

コスモ石油は、クルマ社会と深いつながりを持っています。「コスモわくわく探検隊」は、社員ボランティアが中心になって、交通遺児の小学生を対象に、1993年から継続的に開催しているプログラムです。2008年度の第16回「コスモわくわく探検隊」は、山梨県北社市の山梨県立八ヶ岳少年自然の家を舞台に開催。28名の児童が、森の観察をはじめ、昼間と夜の動物観察、屋台村、体験したことをもとにした新聞づくりなどを楽しみました。

全国から集まったコスモ石油グループの社員ボランティア17名は、NPOのサポートを受けながら、3か月以上の準備期間と2泊3日の研修を経てプログラムを練り上げ、当日はプログラム運営と子どもたちの安全・健康管理に努めました。

● 実施概要 ●

- プロジェクトメンバー：コスモ石油、アースコンシャス(株)オフィスジェアイ
- プロジェクト開始時期：2007年7月
- 開催場所：山梨県立八ヶ岳少年自然の家
- 開催日：2008年7月31日～8月2日(2泊3日)
- 参加者：交通遺児の小学生28名、コスモ石油グループの社員ボランティア17名、外部サポートスタッフ



観察ポイントにやってきた野性のネズミ

参加児童の声

- ヤマネを見たときのことが一番印象に残りました。すごく小さくて、かわいかったです。ヤマネのためにも、地球のためにも、自然を大切にします。そして、いつまでもきれいな地球でいてほしいです。
- ぼくは、やせいのネズミを生で見るのはじめてだったので、きょうみがわきました。ネズミはきたないと思っている人もいたから、かわいくないかと思っていただけ、けっこうかわいかったです。
- みんなとすごしてとても楽しかった…。屋台村の時料理したことが楽しかった。ぼくはこれで4回目だけど来年も絶対にきます!

参加児童の保護者の声

- スタッフの気配りや指導によって、子どもが短期間で成長できました。ありがとうございました。
- スタッフの方々に大変良くしていただいて楽しんで帰ってきました。親から離れてのこういう体験は、子どもたちにとって貴重だと思います。
- 体験した一つひとつのことが楽しかったようです。帰宅してすぐに来年のことを考えていました。
- 子どもを安心して参加させることができ、良い体験をさせていただき、とても感謝しております。



3日間の観察報告を新聞にして、みんなに発表しました



本番と同様のスケジュールで事前現地研修を行いました



事前現地研修後に本社に集まりフォロー研修を行い、社会貢献活動を行う意義や安全管理、子どもとの接し方について学びました

プロジェクトメンバーの声

社会貢献活動は、会社での仕事はもちろん、その人の人生にも良い影響があると思います。

NPOアースコンシャス代表 加藤大吾 様

社員ボランティアの意識が変わると、子どもたちにも良い影響がある。私は、コスモわくわく探検隊の1スタッフとして2004年に参加し、2005年から全面的に関わるようになりました。最初の頃、研修はプログラムのリハーサルという意味合いが強かったのですが、2006年からは、社会貢献活動って何だろう、何のためにやるのだろうというのを考え、取り組み姿勢をつくる場になりました。研修の中で社員ボランティアが学び、そこでできたことを、本番に持ってくるという、一緒に活動をつくるというスタイルができたのです。例えば、魚の

捕り方ひとつにしても、まず研修で捕ってみる。さらに宿題として自分の家の近くでも、研修の経験をもとに捕ってみる。それに沿って、本番で子どもたちと一緒に仕掛けをつくる。この「仕掛け」が面白くないと、捕れなくて、僕も残念だったよ。ということも話せることができる。そうすると今度は、子どもたちが何だか面白そう!となる。そして「大人も失敗するんだ」とか、「いろいろなことを感じるんですね。子どもたちが、ああいう大人がいるんだ」とか、大人がカクカクしている。大人になることがすごく楽しみにするのだと思います。また、社員ボランティアも、子どもが泣いていたら自分自身で対応するという、当事者意識がで

きてきました。これは会社での仕事にも良い影響があるでしょう。人生において、何かの転機や、何かを判断しなくてはならないとき、同じような姿勢で取り組めたら本当に良いと思うのですよね。企業は「どんな卒業生をつくりたいか」ということを考えるとき、コスモ石油には、社員がボランティア活動に参加しやすい仕組みがあるのが良いですね。上司や周囲の人たちも快く送り出してくれる。そんな風土があるのも本



「どんな卒業生をつくりたいか」ということを考えるとき、コスモ石油には、社員がボランティア活動に参加しやすい仕組みがあるのが良いですね。上司や周囲の人たちも快く送り出してくれる。そんな風土があるのも本

なかなかたりもするのだけれど、さあこれから何して遊んじやおうかというふうになる。周りの人とかどういふ関係を結んでいきたいのか、どういふ風に生きていきたいのか、どういふ周囲の人や自分がやりがいをしているのか、そこを中心にして来たら、なんて幸せな企業生活なのでしょ。そして企業を卒業して、退職して、自分の余生が残っている。お金じゃないものが残っている。という企業が増えれば良いと思っています。そういう企業が増えれば、幸せですが、聞かれた時に「幸せです」と答えられる人が増えるのではないのでしょうか。そういう風に世の中がまわっていけば良いと思います。

みんなの絵は本当に素敵で、
 どれもきれいに描けていました。
 土で描いた絵は自然その
 ものです。赤い土は土
 の色、黒い土は木のこけ
 の色、白い土は雪の色です。
 これからも日本の土や自然
 とつながりを感じたいです。
 一緒に楽しみました。



2002~
**コスモ子ども地球塾
 子どものための
 自然アートワークショップ**
 Cosmo Children's Earth School
 Natural art workshop for children

自然への気づきをうながし、子どもたちが自ら行動するきっかけとなるよう、四季の自然の中で「見る・感じる・学習する」アートワークショップを開催しています。

Cosmo Oil hosts an art workshop designed for children to "observe, feel and learn" different aspects manifested by nature in four seasons, guiding them toward self-motivation to act to protect nature.

2008年度の第7回「子どものための自然アートワークショップ」は、オーストラリアからアボリジニアアーティスト マリカ・パトリックさんをお迎えし、土の絵の具を使って絵を描き上げるという大地に根ざした創作活動を一緒に体験しました。砧公園を散策しながら採取した日本の土と、マリカさんが持参した西オーストラリアの色鮮やかな土をコラボレーションさせ、思い思いに絵を描きました。子どもたちの作品は、11月11～24日の間、世田谷美術館において展示されました。

● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、ワンダーアートプロダクション
 プロジェクト開始時期：2008年2月
 開催場所：東京・世田谷美術館
 開催日：2008年11月1日
 アーティスト：マリカ・パトリック(オーストラリア・アボリジニアアーティスト)
 参加者：会場近郊の小学生29名、コスモ石油グループの社員ボランティア10名、社外ボランティアスタッフ



A オーストラリアの土と自分たちで採取した日本の土で絵の具を作りました
 B マリカさんがアボリジニ独自のペインティング手法を披露すると、子どもたちはすぐに自分の絵にそれを取り入れて絵を完成させていきました
 C 子どもたちはマリカさんにアドバイスをもらいながら制作を進めました
 D 作品完成後、何の絵を描いたのかを発表しました

参加児童の声

- 🗨️ オーストラリアの土は、いろんな色があって驚いた。
- 🗨️ 土の絵の具はざらざらしていて、おもしろかったです。
- 🗨️ 公園で、もぐらの穴を見つけてびっくりした。
- 🗨️ 日本の公園の土にも、いろいろな色があることがわかりました。



2003~
クリスマスカード・プロジェクト
 Christmas Card Project

コスモ石油グループの社員とその家族や友人が、入院中の子どもたちにメッセージを送って励ますプロジェクト。
 コスモ石油主催のプログラムに参加した子どもたちもメッセージを送っています。

A program providing an opportunity for Cosmo Oil Group employees and their families and friends to send messages of encouragement to children hospitalized during Christmas. Children participating in the Cosmo Oil-hosted program also send their messages.

「子どものための自然アートワークショップ(9ページ)」に参加した児童の作品をモチーフに制作したクリスマスカードに、参加した子どもたちや、コスモ石油グループの社員や家族、友人が、励ましのメッセージを添えて病院にお送りしています。第6回となった今年は、全国の16の病院に、合計1,775枚のカードをお届けしました。回を重ねるたびにプロジェクトへの参加者が増え、また各病院の医療スタッフの方々からも、毎年楽しみにされているとの声が寄せられるようになりました。

2007~
ホスピタル・ドリーム・プロジェクト
 Hospital Dream Project

入院している子どもたちとその家族に、魅力的なアーティストから素敵な1日をプレゼント!

Gift of a wonderful day to hospitalized children and their families from attractive artists!

この活動は、「クリスマスカード・プロジェクト」がもとになって生まれた「ハッピードール・プロジェクト」を発展させたプロジェクトです。カードを受け取ってくださる病院を対象に、入院患者さんとその家族に向けて、さまざまなアーティストが楽しいパフォーマンスなどを繰り広げ、素敵な1日をプレゼントします。2008年度は、兵庫県立こども病院(兵庫県・神戸市)をはじめ2カ所で開催しました。

● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、ワンダーアートプロダクション、各病院関係者
 プロジェクト開始時期：2008年2月
 開催場所：コスモ石油の事業所所在地を中心とした6都市
 開催日：2008年12月18日・東京都(ケロボンズ)
 2008年12月22日・兵庫県(高見のつば 古家貴代美)
 参加者：入院中の患者さんやその家族、病院関係者



星に願い事を書いてツリーに飾りました



2005~
ユース・
フィランソロピー
Youth Philanthropy

子どもたちが、社会を良くするために、自分にできることを学ぶプログラムです。小学生向けの先駆的プログラムの実施や、米国の好事例の紹介などを通じて、日本でのユース・フィランソロピー普及に取り組んでいます。

A program providing an opportunity for children to learn what they can do to improve society. Implementation of the pioneering program for elementary school children and introduction of good examples in the U.S. to promote the wide acceptance of youth philanthropy in Japan.

米国などで活発に行われている本来のユース・フィランソロピーでは、子どもたちがリーダーシップと創造性を発揮して、自らの責任のもとにプロジェクトを実行し、コミュニティの発展に役立ることが重要な要素となっており、子どもたち自身が必要な助成金申請を行う例も多く見られます。コスモ石油は2005年、日本初のユース・フィランソロピー・プログラムとして、小学生がNPOを体



験・取材し、助け合いの必要性について学ぶプログラムを実施。また2006年度以降は、米国での先進的好事例の収集や情報発信などを行い、2008年度には「ユース・フィランソロピー～子どもが自分の社会的存在意義を知るプログラム～実施報告書」を発行しました。今後も、ユース・フィランソロピーの日本での定着に向けて取り組んでいきます。

2002~
小学生向け環境副読本
「地球環境ブック」
Earth Environment Book

地球環境を守るために活動している人々のメッセージを伝える本です。

A book of messages of people engaged in activities for protecting the environment of the Earth.

小学生を対象にした「地球環境ブック」を2002年に発行。希望者に無料で配布しています。
(教育関係者に限定、送料はご負担いただいています)

お申し込みアドレス
<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/publish/earthbook/index.html>



2003~
Webコスモ子ども地球塾
エコネッツ
"Cosmo Children's Earth School
'econets' website

地球環境を守るためにはどうすればいいか、一緒に考える環境教育 Web サイトです。

An environmental education website where children work together to consider how to protect the Earth's environment.

環境保全に取り組む人の活動とメッセージを中心に、「石油と地球温暖化」など環境教育に役立つ情報や、実際に参加できる活動などを紹介しています。



<http://www2.cosmo-oil.co.jp/econets/index.html>



2005~
2007
パパとキッズのアートプログラム part 1
～世界でたった一つの絵本～
Art Program for Daddies and Kids Part 1
"Unique Picture Book"

父子のコミュニケーションから生まれた数々の絵を、一冊の絵本にするプロジェクトです。

アーティストの MAYA MAXXさんをナビゲーターに、各地の美術館などのスタッフと社員ボランティアが、父子のコミュニケーションをサポートしました。

A program designed to develop an art book into which a number of pictures drawn through communication between fathers and their children are compiled. As the program is held at museums in various parts of Japan and is navigated by MAYA MAXX, an artist, the museum staff and Cosmo Oil employee volunteers provide support for communication between fathers and children.

2005年度から2007年度にかけて、父子がコミュニケーションを楽しみながら参加できるワークショップ「パパとキッズのアートプログラム」を、コスモ石油の支店所在地で全国的に展開しました。アーティストの MAYA MAXXさんをナビゲーターに、開催場所を提供していただく美術館・博物館のスタッフと、コスモ石油の社員ボランティアが、プログラムを運営しました。「パパも昔は子どもだった」をテーマに、お父さんが子ども時代のエピソードを語り、子どもがそれを絵にしていけます。参加費用として500円をいただき、当社が同額をマッチングし、NPOファミリーハウスに寄付しました。



このプログラムは、少子化の原因の1つといわれる「父親の育児不参加」を解消するきっかけとなるような、父子のコミュニケーションを深めるプログラムづくりを模索していたことと、子育て世代の男性社員から「休日はボランティア活動に参加しづらい」という声があったことから、その両方を満たす活動として生まれました。2006年3月の東京を皮切りに、全国9か所の美術館・博物館で実施しましたが、2007年8月26日の愛媛県松山市での開催をもって全プログラムを終了しました。2008年3月に、作品を「世界でたった一つの絵本」に仕上げ、参加いただいた方々にプレゼントしました。

● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、ワンダーアートプロダクション(株) オフィスジェイアイ
財団法人三鷹市芸術文化振興財団・三鷹市美術ギャラリー、国立民族学博物館
北海道立近代美術館、福岡市文化芸術振興財団、仙台市博物館
高松市美術館、広島県立美術館、名古屋ポスト美術館、愛媛県美術館

プロジェクト開始時期：2005年10月
開催場所：コスモ石油の支店所在地
開催日：2006年3月・東京、5月・大阪、10月・札幌、福岡
2007年3月・仙台、5月・高松、6月・広島、7月・名古屋、8月・松山
ナビゲーター：MAYA MAXX
参加者：小学1～4年生の児童とその父親(東京：21組、大阪：19組、札幌：16組、福岡：15組、仙台：27組、高松：25組、広島：22組、名古屋：17組、松山：31組) コスモ石油グループの社員ボランティア延べ 33名



A ブルーベリーなど、食べることができる植物を植えました
 B 中庭にウッドチップを敷きつめ、鳥の巣箱を仕掛けたり、秘密基地をつくりました
 C 社員ボランティアの指導の下、魚釣りに挑戦！
 D 釣った魚をその場でさばいて昼食にしました。食べ切れなかった魚は爆製にしておやつにしました
 E 自分たちのリースを作った後に、大きなリースの飾りつけ
 F 施設の入り口に大きなリースを飾りました

コスモ絵かきっず Cosmo Ekakids

楽しく遊びながら、元気になってもらいたい！
 養護施設の児童を励ますコミュニケーション・プログラムです。
 社員ボランティアが中心になって推進しています。

Have a great time and get well soon!
 A communication program designed to encourage children in child-care institutions.
 Employee volunteers take the lead to promote the program.

家庭内暴力などにより、保護者がありながら児童養護施設で暮らす子どもたちが増えており、東京都だけでも3,000名以上に上っています。コスモ石油は、こうした子どもたちが、元気と自信を取り戻すきっかけの一助とすべく、セラピー的な要素を盛り込んだ「コスモ絵かきっず」を継続的に開催しています。
 2008年度は、2008年5月17日、9月13日、12月13日、2009年3月14日に実施。「中庭リノベーションPart1」「魚を釣って、さばいて、食べよう!」「クリスマスリース作りワークショップ」「中庭リノベーションPart2」の4つの活動を実施しました。

● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、アースコンシャス、(株)オフィスジェイアイ
 プロジェクト開始時期：随時
 開催場所：東京都内の児童養護施設
 開催日：2008年5月17日
 「中庭リノベーション Part.1」
 (社員ボランティア：8名)
 2008年9月13日
 「魚を釣って、さばいて、食べよう!」
 (社員ボランティア：9名)
 2008年12月13日
 「クリスマスリース作りワークショップ」
 (社員ボランティア：13名)
 2009年3月14日
 「中庭リノベーション Part.2」
 (社員ボランティア：8名)
 参加者：養護施設の児童、コスモ石油グループのボランティア延べ38名



チャリティ・ジャズ・コンサート

Jazz charity concert

NPOファミリーハウスとNPOグローヴィル、魚籃寺、コスモ石油のコラボレーションで、チャリティ・ジャズ・コンサートを開催しました。

NPO Family House, NPO Glovill, Gyoran-ji Temple and Cosmo Oil collaborated to jointly hold a jazz charity concert in Tokyo.



このコンサートは、「パパとキッズのアートプログラム(12ページ)」でネットワークが広がったNPOファミリーハウスと、2004年から活動を協賛していたNPOグローヴィルとのネットワークがもたれて継続的に開催されています。
 寄付支援先であるNPOファミリーハウスは、難病で長期入院を余儀なくされる子どもたちの家族が滞在するための施設をボランティアで運営する組織です。
 コンサートを主催するグローヴィルは、先駆的音楽の普及と教育をめざし活動しているNPOで、海外から来日するアーティストから、社会的意義のある演奏機会を持ちたいとの要望を寄せられていました。
 さらに、コンサート会場は、自らもファミリーハウスを提供されている東京都港区・魚籃寺(ファミリーハウスおさかなの家)の山田智之ご住職のご好意によりご提供いただき、昨年に引き続き魚籃寺本堂での開催となりました。
 コスモ石油は、コンサートの開催費用を負担するとともに、社員ボランティアが、会場設営の準備や来場者の案内など、当日の運営をサポートしています。
 コンサートには、定員を上回る124名の来場者にお越しいただき、大人2,000円、高校・大学生1,000円の入場料合わせて130,943円をNPOファミリーハウスへ寄付しました。

● 実施概要 ●

プロジェクトメンバー：コスモ石油、NPOグローヴィル、NPOファミリーハウス
 プロジェクト開始時期：2008年5月
 開催場所：魚籃寺(ファミリーハウスおさかなの家)
 開催日：2008年12月5日
 アーティスト：カレファックス・リード五重奏団



社員ボランティアが受付や会場の片付けなどをサポートしました

環境メッセージの発信

Sending Out an Environmental Message

環境をテーマにしたイベントを開催したり、ラジオ、ホームページ、出版物などで情報を発信することによって、環境について考え、行動する機会を拡げています。

Cosmo Oil holds events under the theme of the environment and provides relevant information via radio, the website and publications to offer opportunities for people to consider and act toward environmental protection.



コスモ アースコンシャス アクト

全国FMラジオ局とのパートナーシップで、環境保全の仲間を増やしています。

Cosmo Oil forms partnerships with national FM radio stations to invite those sympathetic toward environmental preservation to join.

コスモ石油とTOKYO FMをはじめとするJFN 全国FM放送協議会 加盟38局がパートナーシップを組んで、「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ～」をテーマに展開している活動です。一人ひとりが地球のためにできることを考え、行動を起こすことを目的に、「アースデー・コンサート」や「クリーン・キャンペーン」など、さまざまな活動を実施しています。



クリーン・キャンペーン

Clean Campaign

全国の山、川、海、湖、公園を舞台に、自然を楽しみながら清掃を行う「クリーン・キャンペーン」を展開。これまでの8年間に320カ所で開催し、参加人数は延べ12万人を超えました。また2008年度は8月16～17日に、「コスモアースコンシャス アクトクリーン・キャンペーン in Mt. FUJI」を開催し、富士山の清掃活動とエコトレッキングを行いました。

アースデー・コンサート

Earth Day Concert

1995～

音楽を通じて、地球環境への熱いメッセージを伝えるコンサートを、毎年4月22日の「世界アースデー」に開催しています。2008年は、絢香さん、BONNIE PINKさん、ダニエル・パウターさんを迎え、「地球の未来のために今、できること」を発信しました。また「武道館から森を作ろう!」をテーマに、チケット購入代金の一部をアフリカの植林活動に寄付することで、具体的な環境保全活動につなげました。



ラジオ番組

「ずっと地球で暮らそう。」

Radio Program
“Living with Our Planet”

2001～

毎朝JFN各局のレポーターが、日本各地から“旬”な環境の話題を生中継。JFN38局ネットで、毎週月曜～金曜(午前6:40～6:45)にオンエアしています。また、定時ラジオ放送だけでなく、好きな時間に番組を聴けるPC(パソコン)とポッドキャストによる配信も行っています。



左の二次元コードから、番組をご試聴いただけます(約3分)
2008年7月9日(水)
オンエア分
放送局: K-MIX(静岡FM)
レポーター: 河村由美
機種によって試聴できない場合があります。

野口 健 講演会

Ken Noguchi Lectures

2002～

ヒマラヤや富士山の清掃活動をはじめ、稀少自然保護、環境教育などで活躍されている、アルピニスト野口健さんの講演会を全国で開催。野口さんの波乱万丈な生い立ちからエベレスト登頂までのエピソードを交えながら、環境保全の重要性についてアピールしています。



上の二次元コードから、講演をご視聴いただけます(約3分)
機種によって試聴できない場合があります。

インターネットムービー

「いま、私たちにできること」

Internet Movie Entitled
“What We Can Do Now”

小学生の兄妹が、環境問題を少しずつ理解し成長していく様子を描いたムービーです。

A movie describing how an elementary school boy and his sister are growing as they learn to understand environmental problems little by little.

コスモ石油エコカード基金 19～22ページで行っている環境活動「種まき塾」や「シルクロード緑化プロジェクト」、ツバルで行っている「南太平洋諸国支援プロジェクト」での記録映像をもとに、世界各地で起きている環境問題をやさしく説明するムービーを制作し、インターネットで配信しています。このほか「地球のためにできること」野口健 小笠原環境学校」のインターネットムービーも配信しています。

「いま、私たちにできること」
<http://cosmo-oil3.netcinema.tv/>
「野口健 小笠原環境学校」
<http://cosmo-oil2.netcinema.tv/>
「地球のためにできること」
<http://cosmo-oil.netcinema.tv/>



環境文化誌「TERRE」

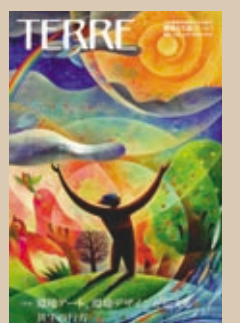
Environmental Culture Magazine
“TERRE”

人の生き方と環境について、多角的に掘り下げる環境広報誌です。

An environment-specialty PR magazine reports stories about the ways people live and the environment from various perspectives.

TERRE(テール)とは、フランス語で「大地」「地球」の意味。「人を通して環境を考え、環境を通して人を見つめる」というコンセプトのもと、過去の人や現代の人の偉大な生き方や考え方を、「環境」という切り口で解きほぐし、多角的に深く掘り下げています。

TERREは2008年秋、第14号をもって休刊しました。



コスモ石油エコカード基金による活動

Activities through the Cosmo Oil Eco Card Fund

お客様とコスモ石油が、一緒になって進めている活動です。
「ずっと地球で暮らそう。」をスローガンに、地球温暖化防止と、次世代の環境教育をテーマに支援活動を展開しています。

Activities which Cosmo Oil and its customers work together to promote.
With the slogan of "Living with Our Planet," we are conducting activities to support the two initiatives of global warming prevention and environmental education for children.

お客様と一緒に、環境保全活動を支援する仕組みを構築

コスモ石油の使命は、石油などのエネルギーを社会に安定供給することです。しかし、ガソリンなどをつくる時に、またお客様の使用時に、環境に大きな負荷をかけていることも事実です。そこで、お客様と一緒に環境保全に取り組むことはできないだろうかと考え、「コスモ石油エコカード基金」を設立。コスモ石油のクレ

ジットカード「コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」」会員のお客様からお預かりした寄付金に、コスモ石油グループの売上の一部を加え、NGO / NPO、政府や地域社会の方々の協力を得て、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開しています。2008年12月現在、会員数は約86,000名に達しています。



「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 1

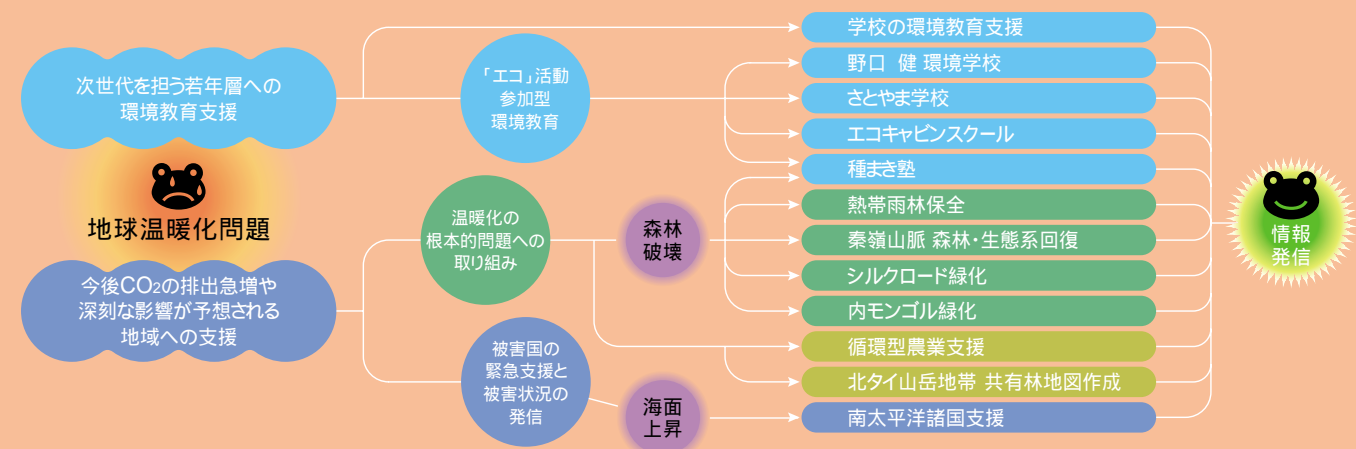
今後CO₂の排出急増や深刻な影響が予想される地域への支援

石油と関わりの深い「地球温暖化」をテーマに、今後CO₂の排出急増や深刻な影響が予想される途上国などの支援を行っています。途上国の環境問題は、食料不足が引き起こす貧困問題や、人口増加などと密接な関係があります。私たちは、現地の状況に詳しいプロジェクトパートナーや、現地の人たちと何度も話し合い、プロジェクトをつくりあげています。

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 2

次世代を担う若年層への環境教育支援

国内では、次世代を担う子どもたちの環境教育支援に力を入れています。環境教育プロジェクトの提供や、学校での環境教育の普及に向けた支援活動を行っています。また、多くの方に環境について考えていただけるよう、プロジェクトの活動内容をWebなどで情報発信しています。



「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトの詳細は、<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyoko/index.html>

2008年度に着手した新プロジェクト

New projects started in 2008

2008年度は「地球温暖化の防止」をテーマに、新プロジェクトの募集を実施しました。25件の応募があり、選考の結果、次の3プロジェクトへの支援を決定しました。

The recruitment of new projects was executed with "Prevention of global warming" as the theme in fiscal year 2008. There were 25 applications, and, as a result of the selection, support to the next three projects was decided.



エコキャビンスクール

Eco-cabin school

[活動地域] 岩手県
[プロジェクトパートナー] NPO法人 岩手子ども環境研究所

2008~

全国の子どもたちを対象に、エコロジカルな生活を体験させ、地球温暖化防止に向けた行動を喚起することを目的としたプロジェクトです。2008年度は、自然エネルギーで生活できる家「エコキャビン」で、小中学生を対象に、太陽・風力・水力などの自然エネルギー体験プログラムを実施しました。



内モンゴル緑化

Inner Mongolian Afforestation

[活動地域] 内モンゴル
[プロジェクトパートナー] 内モンゴル緑化の会

2008~

砂漠化が急速に進むモンゴル自治区において、現地中学校にサジー植林基地を設置し、環境教育と植林を推進します。サジーの実には経済価値が高いため、生活水準の向上にもつながります。2008年度は、現地中学生向けの環境教育教材の作成と、支援拡大に向けた日本国内へのPR活動を行いました。



北タイ山岳地帯 共有林地図作成

Community Forest Map Development in the Northern Mountainous Region of Thailand

[活動地域] タイ北部山岳地帯
[プロジェクトパートナー] Link - 森と水と人をつなぐ会 - (埼玉県・川越市)

2008~

タイ北部の山岳地帯では、少数民族が森林の中で豊かな暮らしを営んできました。しかし、19世紀半ば以降、度重なる森林伐採の被害を受けたため、タイ政府は森林保護政策を打ち出し、住民の住む森を国有林としました。このプロジェクトは、住民が生活基盤を取り戻すために、国有林を再び「共有林」に戻し、住民の持続可能な森林活用を支援することで、貧困問題の解消につなげることを目的としています。2008年度は、支援する村を選択するための視察・情報収集を行いました。



「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト

“ Living With Our Planet ”Projects-1

今後CO₂の排出急増や深刻な影響が予想される地域への支援

Support for regions where a sharp rise in CO₂ emissions is anticipated to result in severe damage.

熱帯雨林保全プロジェクト Tropical Rainforest Conservation

〔活動地域〕バブアニューギニア/ソロモン諸島
〔プロジェクトパートナー〕財団法人オイスカ/NPO法人APSD

CO₂の吸収源である熱帯雨林を保全するため、焼畑農業から、持続可能な循環型有機農業への移行・普及を支援しています。2008年度は、環境啓発を目的とした「ココボ自然環境公園」の開所に向け、井戸掘りや人工水路の設置などを行いました。



シルクロード緑化プロジェクト Silk Road Afforestation

〔活動地域〕中国 〔プロジェクトパートナー〕NPO法人2050

砂漠化の進行防止をめざして、地域住民や地元政府とともに、シルクロードの黄土(オウド)高原の植林を推進しています。2008年度は、現地の農家が中心となり、35haの土地にサジーを植林しました。



循環型農業支援プロジェクト Sustainable Farming Support

〔活動地域〕フィリピン 〔プロジェクトパートナー〕NPO法人2050

キャッサバの葉を再利用する循環型農業やエリ蚕養蚕を軸に、地域の持続的な発展を支援しています。2008年度も引き続き、エリシルクの糸紡ぎ・編み物・織物などの「トレーナー向け技術指導」を行い、技術指導を受けたトレーナーが各地で技術指導を行いました。



南太平洋諸国支援プロジェクト South Pacific Countries Support

〔活動地域〕バヌアツ共和国/ツバル国
〔プロジェクトパートナー〕NPO法人APSD、ISME/NPO法人Tuvalu Overview

温暖化が原因といわれる海面上昇で、井戸水の海水化や海岸線の浸食などの被害に直面する島嶼(とうしょ)国を支援しています。2008年度は、深刻な環境被害を受けているツバルのフナファーラ地区に、マングローブを植林しました。また、地域の人々に向けて、廃棄物による環境被害に関する啓発活動も実施しました。



秦嶺山脈森林・生態系回復プロジェクト Ecosystem Recovery Project of Forest

〔活動地域〕中国 〔プロジェクトパートナー〕西北大学、上海動物園

森林を分断する林道跡地に植林し、絶滅危惧種キンシコウなど、野生動物の生息環境改善に取り組んでいます。2008年度は、同山脈北側に放置されている14kmの林道跡地に植林を行いました。



「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト

“ Living With Our Planet ”Projects-2

次世代を担う若年層への環境教育支援

Support for environmental education for children

学校の環境教育支援プロジェクト Environmental Education Support at Schools

〔活動地域〕北海道、千葉、東京、神奈川、三重、広島、鹿児島
〔プロジェクトパートナー〕社団法人日本環境教育フォーラム

環境教育プログラムの提供や、環境教育サイト「EE Kids」を活用した環境教育のプラットフォームづくりなど、学校での環境教育を支援しています。2008年度は、北海道から沖縄まで全13カ所の小中学校の環境教育プログラムを支援しました。



さとやま学校 Satoyama (Community Forests) Preservation School

〔活動地域〕長野県 〔プロジェクトパートナー〕NPO法人APSD

耕作が放棄された棚田や、里山などを舞台に、環境保活動や体験学習プログラムの開催、出張授業など、幅広い環境教育に取り組んでいます。2008年度も引き続き、里山の再生・保全活動と小中学生への環境・食農教育を実施しました。



野口 健 環境学校 Noguchi Ken Environmental School

〔活動地域〕富士山、佐渡、小笠原 〔プロジェクトパートナー〕NPO法人セブンサミッツ持続社会機構

環境保全に向けて自ら行動し、情報発信できる子どもたち“環境メッセンジャー”の育成をめざしています。2008年度は、富士山(3回)、佐渡、東京の3カ所で環境学校を開催しました。



種まき塾 Seed Planting School

〔活動地域〕北海道 〔プロジェクトパートナー〕LLPふらの種まき塾

“ココロと大地にタネを蒔く”をスローガンに、北海道の富良野で、森林生態系の回復に向けた苗木の供給と、環境教育に取り組んでいます。2008年度は、アカエゾマツやミズナラなど5,520本の苗木を、地域で植林する方々に提供したほか、体験学習も実施しました。



芸術・文化活動支援

Support for artistic and cultural activities

心豊かな文化的社会づくりに向けて、芸術・文化活動を支援しています。

Support artistic and cultural activities to build a considerate and cultural society.



～美術館・博物館へ行こう～

A Day in the Museum 協賛

芸術・文化に触れる機会を増やしていただくために、NPO 美術ファンクラブが実施しているプログラムに協賛しています。2009年1月2日、東京国立博物館、国立西洋美術館、ポーラ美術館の入場を無料としました。



大阪ヨーロッパ映画祭

～キンダーフィルム特集～ 協賛

ヨーロッパの子どもたちが制作した映像作品を、日本の子どもたちが楽しむ機会を提供することで、子どもたちの自主性と創造力を育むことを目的とした活動です。NPO 大阪ヨーロッパ映画祭実行委員会が主催する活動に、健全な次世代育成支援の一助として協賛しています。



子どもへの音楽アウトリーチ活動の日米研究全国フォーラム
ミュージシャンと音楽であそぼう!

～ニューヨークからの贈りもの～ 協賛

地域貢献の一環として、NPO くらしに音楽プロジェクトが主催する活動に協賛しています。2008年11月11～14日、ニューヨーク・フィルのティーチング・アーティストによるワークショップが開催され、大勢の子どもたちや音楽家との交流を果たしました。



新国立劇場シリーズ協賛

社会貢献活動のコンセプトの1つとして掲げている「心豊かな文化的社会の構築」の一環として、新国立劇場におけるバレエ公演の年間を通じたシリーズ協賛を行っています。



中学生のためのバレエ

健全な次世代育成支援と地域貢献を目的とした、中学生のためのプログラムです。2008年6月26日に、第1回目となる「中学生のためのバレエ～白鳥の湖～」を新国立劇場で開催し、当社製油所が所在する千葉県市原市などの中学生約1,200名が鑑賞しました。上演前にバレエの見方や見どころの説明を受けた後、物語の進行とともに舞台・観客が一体となり、盛大な拍手のなかプログラムは終了しました。



横浜トリエンナーレ 2008

キッズ・キュレーターズ プロジェクト協賛

現代美術の国際的祭典である横浜トリエンナーレを舞台に、横浜市などの小中学生40名以上の子どもたちが、2008年10月・11月の全日曜日(8日間) 来場者に向けてギャラリーツアー(作品の解説)を行いました。

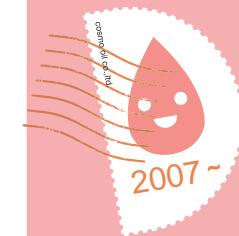


製油所 / グループ会社の活動

Refinery / Group company Activities

地域社会への貢献活動を通じて、社員、その家族、そして地域の方々のコミュニケーションが広がり始めています。

Activities to contribute to the growth of local communities are broadening the range of communication between Cosmo Oil employees and their families, and local residents.



千葉製油所

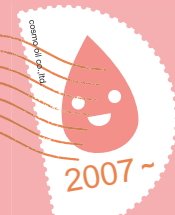
「コスモの森」整備計画

千葉製油所は、近隣の里山保全プロジェクトを推進しています。2008年は、千葉県と京葉臨海コンビナート企業が合意している「エネルギーフロントランナーちば推進戦略」の一環として、市原市の県有林を「コスモの森」として借り受ける協定を結び、里山の整備を開始しました。2008年9月6日には、社員やその家族が参加して、下草刈りやネイチャークラブ体験などを実施しました。さらに2009年2月22日と3月15日には、NPOと社員ボランティアが共同で下草刈りのほか、枝・竹等の片付け、丸太橋の設置など、来年度実施予定の地元小学校を対象とした環境教育のフィールドとしての整備を進めました。今後も「コスモの森」を活用して環境教育を含めた地域とのコミュニケーション活動の強化を図っていく予定です。



●実施概要●

プロジェクトメンバー：千葉製油所
NPO 法人千葉自然学校
プロジェクト開始時期：2008年4月
開催場所：千葉県市原市
開催日：2008年9月6日
2009年2月22日、3月15日
参加者：コスモ石油グループの社員ボランティア



コスモ松山石油 「コスモの森」づくり

コスモ石油グループのコスモ松山石油は、2007年度から愛媛県と協定を結び「企業の森」づくりに取り組んでいます。2007年度に、サクラの苗木40本、紅葉の苗木45本を植樹し、定期的の下草刈りなど森の維持活動を行っています。2008年度は、7月と10月に、従業員やOBが参加し、下草刈りを行いました。

●実施概要●

プロジェクトメンバー：コスモ松山石油
プロジェクト開始時期：随時
開催場所：愛媛県東温市
開催日：2008年7月26日、10月25日
参加者：コスモ松山石油従業員40名、コスモ松山石油従業員30名・OB10名



緊急時支援

中国・四川大地震への義援金拠出

2008年5月12日に発生した四川大地震に対して、500万円の義援金を寄贈しました。

岩手・宮城内陸地震被災地域への義援金拠出

2008年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震に対して、社会福祉法人岩手県共同募金会、並びに宮城県共同募金会に対して各100万円、合計200万円の義援金を寄贈しました。

その他の活動(随時)

献血活動
使用済み切手、プリペイドカードの回収とNPOへの寄付
中古CD、ゲームソフトの回収とNPOへの寄付

外国コイン、紙幣の回収とNPOへの寄付
書き損じハガキの回収とNPOへの寄付
福祉を目的とした各種バザーへの献品協力



経済活動と
社会貢献活動は、
クルマの両輪。
どちらが欠けても、
会社は続いていかない。

代表取締役副社長 森川桂造

社会貢献活動に関わる社員の声

経営者、活動に参加する人、
活動を促進する人、
休暇制度を運用する人・・・
立場は違っても、
みんな社会貢献活動に関わる
コスモ石油の社員です。

く、自分が体験し、共有感を持ちながら、お互いが切り開いていくものだという認識を持ちました。また、子どもは子どもなりに一人の人間で、それぞれの価値観があることや、相手の目線で物事を考えるとお互いに共有感が生まれることもわかりました。活動を通じて輸入・製造・販売といったさまざまな職種の人や、若手の人から諸先輩方まで、普段の仕事では会わない人たちと時間を共有したことで、「コスモ石油としての一体感が得られました。同じ会社の人間として、社会貢献活動を続けられていることを尊敬しますし、社会貢献がコスモ石油の真の文化となるよう、これからも、みんなと一緒にやっていきたいと思っています。

地域社会から信頼される
製油所をめざして、
自分の心と会社に
社会貢献マインドを
根付かせる。

坂出製油所 所長 井原克幸



続いていくことで、自分の心にも、会社の文化としても社会貢献が根付いていくと考えています。

まず、会社がさまざまな地域で当たり前のように行っている社会貢献活動があり、ためらわずに参加できる土壌があることを前提として、それをバックアップする制度として導入されたのがボランティア休暇制度です。義務感をもってボランティア活動をするのは良くないですし、ボランティア活動をしたという社員が自然に増えていくのがベストだと思います。

経 済活動と社会貢献活動は、クルマの両輪です。どちらが欠けても、会社は続いていきません。社会貢献活動も、続いていくこと、広がっていくことが大切です。義務感で行っても続かないでしょう。ですから、行きたい人が行って、行きたくない人は行かなくていい。コスモ石油の社会貢献活動は社員参加型ですから、行って体験した人が、「君も行けば？」というように広がっていかば良いと思います。最近、活動に参加する若い社員が増えています。それは非常に良いことだと感じています。なぜなら、会社は社会の公器」という意識を自然に持った人たちが、将来の会社を担っていくのですから。

私 はこれまで、「コスモわくわく探検隊」、「パパとキッズのアウトプログラム」、「富士山の清掃登山」、「熱帯雨林保全プロジェクト」に参加しています。なぜ継続的に活動に参加しているのかと考えると、それは、自己発見があり、自分自身にとって意義があり、自分のために行っているからだと思います。例えば、清掃登山にしても、一般の人たちと一緒に参加している社員ボランティアとの交流を通じて、信頼感や連帯感が生まれます。これは、仕事だけでは決して生まれないもので、結果として社会貢献の場所での仲間意識は、仕事でも良い効果につながっています。

社会貢献が
コスモ石油の
真の文化となるよう
これからも、みんなと
一緒にやっていきたい。

財務部 財務グループ 風祭達弥



2 008年に初めて、「コスモわくわく探検隊」、「コスモ絵かき」に参加しました。入社17年目にして、社会的にも、家庭的にも周りを見渡せるようになり、それまで社会貢献に関して何もしていなかったことや、小学生の父親としても子どもとの触れ合い方を学びたいと考えるようになったからです。今さら参加するのも恥ずかしいという不安もありましたが、職場の人たちは快く送り出してくれました。

1 993年当時、コスモ石油では「企業は利益をあげることはもちろん、社会にどう還元するかが大事」ということで、メセナ活動への取り組みについて検討していました。その一環として、「コスモわくわく探検隊」が実施されましたが、第1回はまさに手探りで手づくりの活動でした。「コスモ石油は、「仕事で認められたい」というプライドのある会社ですが、参加した子どもたちから、「コスモ石油の活動は楽しかった」と言われると、仕事にはない感動が得られ、また達成感もありました。そこで、みんなにも同じ感動を味わって欲しい」と考え、若手社員に参加を呼びかけたのです。2008年は、坂出製油所から2名が、「コスモわくわく探検隊」に参加しています。

坂 出製油所は、瀬戸内海国立公園に隣接しており、また地域社会には漁業を営む人が多くいらっしゃいます。ですから、空も海も汚さないことが仕事の大前提であり、さらに社会貢献活動などを通じて地域社会との信頼関係をつくるのが大事になります。私たちの製油所では約400名が働いており、近隣の通勤路の清掃を年4回、これはもう長年行っています。また、9月には近隣の海水浴場の清掃も実施しています。こういった活動を10年、20年と継続

社員の
“ボランティアしたい気持ち”を
バックアップするのが
ボランティア休暇制度。

人事部 労務・人権グループ 笹川詩乃



コスモ石油は、2007年にボランティア休暇制度を導入し、2007年度は18名、2008年度は24名の取得がありました。この制度は、休暇が取れますから、ボランティア活動をしてください」という主旨でつくられたものではなく、ボランティアに参加したいけれど休みが取れなくて」という社員の気持ちを後押しすることに意味があります。私自身、高松支店に勤めていた頃に



2009年3月発行

 **コスモ石油株式会社**

〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号 東芝ビル
TEL.03-3798-3211(代表) <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

